



区域数の設定状況によるメリット・デメリット

	区域数が多い (区域あたりの範囲が狭い)	区域数が少ない (区域あたりの範囲が広い)
メリット	<ul style="list-style-type: none"> 利用者の居住区域に必要な事業・施設が整備され、利便性が高まる。 狭い区域で需給バランスを図るため、利用者の居宅近くにさまざまな施設・事業が整備される。 	<ul style="list-style-type: none"> 一時的な需要の増減等に対して、広域で調整がしやすい。 仕事の都合など、居住地区以外の施設・事業のニーズへの需給を区域内で見込める。 区域内にさまざまな施設・事業等が存在して、利用者の選択の幅が広がる。
デメリット	<ul style="list-style-type: none"> 区域内で需給バランスを取るため、隣接区域の状況にかかわらず区域内の整備が必要になる。 児童数の増減やさまざまなニーズの増減について、区域内では対応できない場合がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 距離が遠いため、事業によっては区域内での利用が困難な場合が発生する可能性がある。 区域内にバランス良く施設・事業が配置されない場合がある。

公立保育所の8つの役割

- (1) 市内における保育のスタンダード
- (2) 市内保育環境のセーフティネットの確立
- (3) 特別な配慮が必要な児童への対応
- (4) 新規事業の研究・実践
- (5) 緊急時において保育が必要な子どもの保護
- (6) 保育環境の整備による安全・安心な保育の提供
- (7) 公共施設・民間保育施設等との連携・協力による双方の機能強化
- (8) 地域及び子育て家庭に対する支援